

6. 瀬戸内海の塩に係る資料館など

(香川県立ミュージアム (香川県高松市))

「塩」抜きには語れない香川の歴史を、時代をおって学ぶことが出来、そのなかで塩づくりや流通についても紹介されている。現在に至るまでの塩づくりの変遷がコンパクトにわかりやすく映像化されているビデオライブラリーはみどころのひとつ。

(坂出市塩業資料館 (香川県坂出市))

古くから塩の産地として栄えた香川の現在に至るまでの製塩の歴史が詳しく解説されている。土器製塩から入浜式塩田まで、塩づくりがどのように行われていたかを、実際の道具や模型、写真、映像から学ぶことができる。



(うたづ海ホテル (香川県宇多津町))

塩田跡地に建てられた館内では、最新映像で塩づくりの作業や宇多津町の歴史を紹介している。瀬戸内海に面した位置には入浜式塩田が復元されており、希望者は製塩体験を行うことができる。(要予約)



(ソルティ多喜浜 (愛媛県新居浜市))

全国でも珍しい小学校に併設された製塩施設。流下式のミニ塩田として、枝条架が2架、下盤が1ヶ所設けられ、沖合からくみ上げた海水を濃縮させ、かん水(濃い塩水)を作り出す製塩の仕組みを説明している。平成17年(2005年)に、多喜浜塩田開発300年を記念して、新居浜市教育委員会の『夢広がる学校づくり』事業の一環として地域の人々の支援により建設された。



(赤穂市立海洋科学館・塩の国 (兵庫県赤穂市))

赤穂海浜公園の敷地内にある塩や海についての科学館。公園内に揚浜式塩田、入浜式塩田、流下式塩田を復元し、塩づくりの歴史が見えるように工夫して展示されている。また、隣接する塩の国では、かん水を煮詰めて塩を作る体験棟がある。



(赤穂市立歴史博物館 (兵庫県赤穂市))

正面から見ると近代的な現代建築。裏手から見ると白壁の土蔵造り。そんな不思議な外観をもった赤穂市立歴史博物館は「塩」と「赤穂義士」をメインテーマとし、「塩と義士の館」を愛称に持つ赤穂ならではの博物館である。展示品には国指定重要有形民俗文化財である「赤穂の製塩用具」もある。



(野崎家塩業歴史館 (岡山県倉敷市))

江戸時代に塩田を開発し、現在も塩をつくり続けている野崎家の旧宅。3000坪の敷地すべてが岡山県の史跡に指定されている。

敷地内にある蔵のひとつが塩業資料の展示館になっており、塩づくりについても学べるほか、近世後期の建築技術の粋を集めた建物もみどころ。予約をすれば、塩づくり体験も可能。



(竹原市歴史民俗資料館 (広島県竹原市))

慶安3年(1650年)に赤穂の入浜式製塩の技術を移入してからの310年間、塩の町として知られていた竹原で実際に使われていた製塩用具を展示している。



(三田尻塩田記念産業公園 (山口県防府市))

江戸時代中期から昭和 30 年代まで約 260 年間にわたって、全国有数の塩の産地として栄えた防府の塩田跡地の一角にある公園。入浜式塩田の諸施設を復元し、製塩道具等の展示や塩づくりの様子を紹介している。予約をすれば、塩づくり体験が可能。年に一度塩田まつりも行われている。



参照： 公益財団法人塩事業センターHP



瀬戸内海の塩に係る資料館など